

マレーシアは、独立50周年！

(有)オフィスFABB 代表取締役 藤井晶子

一年中夏服で暮らせる東南アジアは、日本人観光客が多く訪れますが、タイやシンガポールほどマレーシアという国は日本人にとって馴染みがありません。今回マレーシア政府観光局主催の『独立50周年記念メディア関係者招待ツアー』に参加してきました。

関空からマレーシアの首都クアラルンプールまでは6時間強のフライトです。そこから国内線に乗り継ぎ約1時間でケダ州アロスター空港に到着。3日間観光局主催のイベントに参加し、高速船を使って、リゾートでお馴染みのランカウイ島に移動しました。ランカウイ島は欧米人、特にオーストラリアからクルーザーでやってくる人が多く、都会の喧騒を離れて、ゆったりとリゾート気分を味わうには最適です。気候は亜熱帯気候で日中32度まで上がりますが、木陰に入ると島風が心地よく快適でした。

食事は、日本人の口にも合うマレー料理。イスラム教が国教ですのでアルコールを置いていないマレーレストランもありますが、中華・イタリアン・フレンチなど、旅行者相手のレストランではアルコールも販売されています。何より、ここランカウイ島はTAX FREEなので、すべてのものが安いのも魅力です。



のんびりしたランカウイ島と違い、マレーシアの首都クアラルンプールは近代都市。ここ10年ほどの発展はめざましく、一言でいうなら「アトムの世界」。50階以上のビルが立ち並び、その間をモノレールが走っています。こちらは人種の垣根でブランド店を含む、巨大ショッピングセンター「KLCC」があり、伊勢丹・紀伊国屋・吉野家などが見られます。世界一を誇る「クアラルンプール・タワー」からの景観は圧巻でした。また世界一美しいビルといわれるツインタワーも特に夜間のイルミネーションが最高です。

今回はケダ州とクアラルンプールしか訪れませんでした。西海岸や南東部、内陸の「日本の軽井沢」といわれるキャメロン・ハイランドなど、再度訪れてゆっくりリゾート気分を満喫したいと思わせる魅力的な国マレーシア。今年は特に8月31日に独立記念祭典もあり、春から秋にかけてイベントが盛りたくさんです。

マレーシア政府観光局の公式サイト『<http://www.tourismmalaysia.or.jp/>』を覗いて、今年の夏休みに行かれていますか？



平成19年度の主な事業

平成19年

4月18日(水)	事業説明会	大商女性会
4月24日(火)	上方落語鑑賞会&昼食会	大商女性会
6月20日(水)	大商女性会・総会&講演会	大商女性会
7月下旬	新入会員との懇親会	大商女性会
9月11日(火)	【近畿女性会連合会】第19回総会・大阪大会	
10月中旬	原子力勉強会	大商女性会
11月上旬	経営事例発表会	大商女性会

平成20年

1月中旬	大商女性会新年会	大商女性会
2月上旬	経営事例発表会	大商女性会
3月中旬	【大阪府女性会連合会】総会&講演会	

◆編◆集◆後◆記◆

来年で50周年を迎える大商女性会。50年前の大阪は、まだまだ戦争の傷跡が残っていました。大通りを除く道路脇の空地には、レンガや瓦のかけら、焼けた後だと分かる痕跡があり、あの大阪駅前には防空壕もどきの地下入口があったように記憶しています。その頃から大阪女性会の先輩方が活躍しておられたのだと思うと驚きとともに、継続してこられた皆様に敬意と感謝の念で一杯です。この先輩方の大阪女性会に対する熱い情熱と愛を受け継ぎ、次の世代への橋渡しが出来ればと願っております。

(広報委員会)

※掲載している役職は、全て開催当時のものです。



皆様ご存じですか！NOWの名付け親は、元副会長の山下敦子様です。“今、現在”という意味です。今の時代を担う女性会、頑張りましょう！！

大商女性会 編集発行/大阪商工会議所女性会(大阪商工会議所総務広報部内)
〒540-0029 大阪市中央区本町橋2-8 TEL:06-6944-6211 FAX:06-6944-6250

Vol.16
2007年春号

大阪商工会議所女性会 創立50周年に向けて



大阪商工会議所女性会
会長 長谷川 妙子

私たち大阪商工会議所女性会は、昭和33年に設立され、平成20年に「創立50周年」という大きな節目を迎えます。歴代の会長をはじめ、諸先輩方のご尽力とご活躍のお陰を持ちまして今日に至っており、心より敬意を表す次第です。

この記念すべき日を翌年にひかえ、女性会の皆さまと共に迎えられることを大変光栄に存じておりますとともに、記念事業の実現に向けて、計画をより具現化させ、本格的に活動する時期となり、その責務の大きさに身の引き締まる思いです。

私といたしましては、これまで諸先輩方が築いてこられた歴史と伝統ある女性会を、一層発展させるために会員数300名を目指し、引き続き会員増強に取り組んでまいりたいと存じます。

さらには、本年9月11日(火)に開催いたします「近畿商工会議所女性会連合会・総会」ならびに、来年の「大商女性会創立50周年記念」を迎えるに当たり、「交流と創造」をモットーに、大商女性会一丸となって臨んでまいりますので、会員の皆さまの倍旧のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新年互礼会

(株)コニック 代表取締役社長 大川雅子

毎年恒例の大阪商工会議所女性会の新春互礼会が1月16日(火)、スイスホテル南海大阪にて開催されました。太田房江大阪府知事、關淳一大阪市長、野村明雄大阪商工会議所会頭ご臨席のもと、117名の参加者が集い、新春らしく和服姿の方も多く参加され、華やかに行われました。

長谷川会長のご挨拶で、今年9月の近畿商工会議所女性連合会の大阪大会開催、また2008年の創立50周年という大きな節目を迎えるに当たり、皆様の大きなパワーをいただき、会員増強に一層努力していきたいとお言葉があり、恒例の「たのんまっせ！」との呼びかけに「まかしときい！」の力強い返答が全員からありました。

公務ご多忙の中かけつけていただいた太田知事は、「クリーンな行政を行うためにも皆様の力をいただけて頑張っておりますのでご協力お願いしたい」とのお言葉がありました。

そして野村会頭の乾杯のご挨拶のあと、素晴らしいお料理をいただきながら会話が弾み、会員同志の交流を深めることが出来ました。

マジックショーのアトラクション後、スイスホテルをはじめ会長や役員の方々から沢山のご寄付の品々が提供され、楽しい抽選会が行われました。最後に昨年のお新入会員、また同伴者の方々のご紹介があり、会員同志の友情を確かめ合い、にぎやかな中、閉会しました。



「子育てについて」

梅田総合法律事務所 弁護士 大平光代

従来の子育てについてなされている議論について思うことは、子供を育てることの喜び、子供にとって、よい家庭環境をつくることの大切さといった視点が、欠けているのではないかとことです。親は子育てに割く時間よりも自分の楽しみの時間を優先したり、また安易に育児を外注化してしまい、子供よりも親の都合が優先され、子供が親と接する時間が少なくなっています。親が自分たちのことで精一杯になっている現状で親自身に心のゆとりがなく、思いやりのある家庭環境をつくることのできない中で、子供たちが日々ストレスを感じながら育つということです。

本来、家庭とはお互いに心を向けあい、喜びも悲しみも苦しみも分かち合っていくものだと思います。しかし残念ながら現在の家族の状況は、わがまま勝手なことをお互いに言い合う自己主張の集団で、形の上では家族でも精神的には家族になりきれていないのではないかと思います。外見上、何の問題もないような家庭の子供が取り返しのつかないような事件を起こしたり、問題行動を起こしたりしているのです。子供が問題行動を起こした時、親同士が互いの子供をこのように育てた責任の押し付け合いをするのではなく、まず自ら反省して心のありかたと行動を変えていくことが大切だと思います。子供は親の所有物ではありません。親自身が子供に対して人格をもった一人の人間として愛情豊かに接する気もちを持っていれば、何気ない日々の会話からも、子供たちは自分の存在感を感じ、それが彼らの生きる力になっていくのです。人は一人では生きていけません。誰かのお世話になり、また、ときには迷惑をかけながら生きていくわけですから、子供に少しでも良いことをして親や社会にお返ししていこうという当たり前の意識を持たせるためには、まず親が愛情豊かに子供を育てることが必要です。私たち親は、将来を担う子供をいかに健やかに育てるかを真剣に考えなければならず、ひいてはそれがよりよい地域社会や国づくりになっていくものだと思います。

全商女性会三重大会に参加して

中央漁具(株) 取締役 橋本純子

平成18年11月21日(火)、朝からよく晴れて、まさに絶好の伊勢詣日和となりました。大阪女性会一同は元気に梅田を出発、一路伊勢路に向い、敬愛して止まない伊勢神宮に到着。三重女性会のご配慮により、内宮での特別参拝をさせていただきました。玉砂利を踏みしめながら観る紅葉も美しく、清々しい空気を満喫しました。

夕方から大懇親会場サンマリーナへ移動。入口で地元コーラスのお出迎え、お木曳太鼓をバックミュージックに、



見事な伊勢海老をいただきながら、会員相互の懇親を深めました。翌日は引続き同会場で記念イベント、藤田紘一郎先生の講演を拝聴いたしました。アレルギー学権威者の先生のお話は、一時間余りありましたが、まったく退屈させない見事な語り口で、先生のお人柄が忍ばれました。

久しぶりに、尾崎名誉会長の元気なお姿を拝見したこと、長谷川会長が見事大役を果たされたことなど、私たちにも嬉しい2日間でした。事務局のお2人にも大変お世話になりました。

最後に、一致団結、一生懸命さが伝わってきた今大会、三重女性会の皆さまに心から尊敬と感謝を申し上げます。

経営事例発表会(H18.11.9)

(株)宣花社 代表取締役 小嶋夕美

大阪府下女性会・当女性会共々大勢の方々のご出席で、会場内は和気あいあいのなか始まりました。

相互タクシー(株)代表取締役の小野幸親さんからの「心からのおもてなし」というお話で、彼女とタクシーの出会いが平成3年。ご主人を亡くされて、専業主婦から一転、男社会に飛び込むことになりました。乗務員の面接の際には、自分自身で一人ひとりに経営理念である、「安心・安全」を教えられたことやISOの取得をされたことなど、色々ご苦労が耐えないなと思いました。

私が、無愛想な運転手さんの事をお聞きしたところ、それは「タクシーに一歩足を踏み入れたときに乗務員の親切な言葉と笑顔でお客様をお迎えする気持ちがないからだ」とおっしゃっておられました。

続いて、長谷川妙子女性会会長でフェザー(株)会長の「縁と運が支えた開き直り人生」というお話で、ご主人を昭和53年に亡くされて、専業主婦から一転オーナー社長に就任されました。倒産の危機にも直面しながら、本社工場の土地の売却や創業以来のミシン製造から撤退されるなど、就任直後から危機を乗り越えて、かつらメーカーへの転身を遂げられました。

コスト面で国内製造が厳しくなり、生き残りをかけてタイに進出し、現在現地で400人を雇用するまでに至っておられます。

さまざまな苦難を乗り越えられたのも従業員たちのお陰だとおっしゃっておられました。

経営者としての半生は、まさに波瀾万丈の連続だったにもかかわらず、いつも笑顔で優しく私たちに接していただき、ありがとうございます。



第4回原子力勉強会に参加して!!

初田防災設備(株) 代表取締役 中前怜子

平成18年10月30日(月)、会員16名で近畿大学の研究用原子炉の見学に行きました。大阪商工会議所前から大型バスで近畿大学まで送迎していただきました。

近大の原子炉は、昭和36年に東京晴海で開催された国際見本市に展示されたものです。初代近畿大学総長・世耕弘一氏が学生のために日本の大学では初めて原子炉を導入されました。それから同大学のキャンパスに原子炉の火が灯され、約45年経っています。

現在、原子炉が設置されている大学は、東大・京大・近大の3大学。同大学の原子炉は畳半畳ほどで、出力1Wと大変小さいものですが、日本の民間原子炉の第1号として設置するときに住民から大変反対されたそうですが、原子炉工学部を創設されました。

その炉を上から覗き込んでプラント内部の説明を教授からお伺いしましたが、構造などの専門的なことはあまり分かりませんでした。あとで放射能が付着していないかの検査があり、「異常なし」だったのでホッとしました。そして教室に入って同大学の原子力研究所所長の伊藤哲夫教授から、原子力のエネルギーや放射線の利用がなくては生活が出来ないこと、また色々な分野で放射線が活用されていることなどのお話を伺いました。例えば、各種病院でのガン治療、X線、CT、MRI、また食物の品質改良、食品の保存、農業の品種改良、害虫駆除などです。

薬も適量なら病気を治しますが、大量に服用すると死を招きます。放射線にも同じことがいえるということが、多くの研究から分かってきたそうです。

私たちは知らない間に放射線の性質を利用し、豊かで便利な生活を送っています。「怖いだけじゃない放射線」のお話が少しずつ分かってきたようです。

これで4回目の原子力勉強会の参加となりますが、原子力の真の姿を早く理解しないといけないと思っています。

新入会員との懇談会

久栄工業(株) 取締役 濱田かほる

平成18年12月5日(火)午後3時から5時、大阪商工会議所6階「白鳳の間」で開催された、新入会員との懇談会に参加しました。

私が入会したのは平成17年7月。そのあとすぐに、「第一回女性企業経営者等日中交流訪中団」に出席し、東京・岐阜・名古屋・大阪・広島・宮崎などの女性会の方々ともお知り合いになれ、とても良い経験をさせていただきましたが、私自身まだ新入会員と知り、ちょっと驚きました。参加された皆さんは若いのに社長や会長として、またその方々をサポートする経営者として頑張っておられる方々ばかりなので、大阪商工会議所女性会の将来もますます発展されることだろうと思いました。

いま、大阪の経済は少々下降気味だといわれますが、色々皆さんの叡智を持ち寄って元気な大阪になるよう、新入会員の方に期待がかかっているように思います。そして、今後とも新しい会員の方をお誘いして、「広く、明るく、元気な大阪を!」、未来に向けて発進していきましょう。



万里の長城にて

経営事例発表会(H19.2.6)

(株)清香苑 代表取締役社長 小栗真理子

まず最初は、マロニー(株)代表取締役の河内幸枝さんのお話です。

『先哲が「運命の半分を我々自身に委ねる」と、人運はその人の努力や生き様によって変わる。したがって人運は、経営者の心構えがモノをいい、ツキを招き寄せる。』この意味でも河内社長は運が強い人であり、力がある指導者でしょう。しかし、マロニーという強いブランドに甘えることなく、創業50周年を機に業務改革のプロジェクトチームをつくり、生産管理・販売管理・物流管理などのシステム化に挑戦され、見事成功させて関西IT活用企業百選で二度の優秀企業に輝やかれました。創業者のカリスマ性と戦いながら、「社員はうんと働き、社長の私は運と働く」と気負いのない、しなやかな経営姿勢に彼女の経営者としての器の大きさが見えました。

続いては、(有)石川企画代表取締役の石川豊子さんです。

テレビ局のアナウンサーを振り出しにマイクを持って38年と語られる石川さん。人の世を織り成す言葉の数々…。どれをとっても日本語の豊かさに驚かされます。吉村流家元(人間国宝)を父に持つ彼女は伝統芸能への造詣も深く、美の本質を見ようとする感覚が複眼的な価値観となって企業活動を支えており、プロとしての底力が窺えます。国を代表する数々の新しいプロジェクトを手掛け、次々と新しい事業のプロモートをするなど、その軽やかな側面がなければ生まれてきません。さらに、彼女は自分の仕事や才能を老若男女を問わず世の中に返している。幼い生徒との間に生まれた豊かな力を互いにエネルギーとして前進しているとのこと。最後に、「いままさに私の“人生の綾織”が出来上がりつつある」とにこやかに結ばれました。

